

岐阜農林事務所の普及活動状況

令和元年 9月 26日 現在

今月の重点活動

■スマート農業 第3回コンソーシアム会議を開催

(農)巣南営農組合では、本年度から県をはじめ関係機関等とともに国のスマート農業実証プロジェクトに取り組んでいる。

9月9日には、輸出用米の収穫開始を前に第3回コンソーシアム会議が開催され、(農)巣南営農組合のほか関係機関、農機メーカー、助言・指導を行う農研機構研究員など24名が出席してこれまでの経過など中間検討を行った。

会議では、農業普及課からスマート農機の稼働実績、水稻の生育経過について報告を行い、組合からは農業機械ごとに異なるGPS基地局設置に手間がかかる事などが問題提起された。

今後、農業普及課では、ロボットコンバインを用いた収穫作業などスマート農業実証への生産費や作業性等について分析を進めていく。(地域支援第三係・松本 政行)



【コンソーシアム会議】

多様な担い手づくり

■岐阜地域青年農業士連絡協議会 視察研修の開催

9月11日、岐阜地域青年農業士連絡協議会の視察研修が開催され、「名古屋植物防疫所中部空港支所」と日進市の「田園郊外クラブ」を訪れた。

「名古屋植物防疫所」では植物検疫業務の概要について説明を受け、輸入植物の検疫現場を視察した。「郊外田園クラブ」では、農家レストランにて貸農園の取り組みについて説明を聞いた。

視察終了後、青年農業士からはどちらの視察先も非常に興味深かったとの感想が聞かれた。

農業普及課では、今後も青年農業士の活発な活動に向け支援を行っていく。

(地域支援第一係・鈴木 郁子)



【農家レストランを訪問】

■女性農業経営アドバイザー 岐阜ブロック会員相互視察研修を開催

9月12日、女性農業経営アドバイザー岐阜ブロックが会員相互視察研修を開催した。

この研修は、若い会員へと世代交代が進み、原点に返り会員同士の相互訪問による仲間づくりと経営スキルの向上を目的に開催された。当日は13名の会員が参加し、岐阜市や羽島市など4名の会員宅を訪問した。

訪問先では、6次産業化を行う会員等から収穫体験や試食体験など経営上の工夫が紹介され、参加した会員は熱心に学習し、大変勉強になったと好評であった。

農業普及課では、女性農業経営アドバイザー活動を通して、自主的な組織運営を支援する。(園芸産地支援第一係・福田 富幸)



【相互視察研修】

売れるブランドづくり

■えだまめ 後期作型目揃え会を開催

9月6日、岐阜市にある島集荷場においてJAぎふえだまめ部会の後期作型目揃え会が開催され、生産者やJA担当者など総勢60名ほどが参加した。

市場関係者からは、前半戦は天候の影響で全国的に荷物が集



【えだまめ目揃え会】

中して厳しかったが現在は販売環境も回復し、今後の出荷増大を期待すると挨拶があった。
農業普及課からは、本年は害虫が増加傾向で品質向上に向けて防除を呼びかけたほか、GAPの内部点検の実施結果を報告して、より多くの生産者の実施を呼びかけた。
(園芸産地支援第一係・高井 啓)

■羽島市水稻種子採種組合 水稻採種ほ場における出穂期審査を実施

9月3、4日の両日、羽島市水稻種子採種組合の採種ほ場(7.86ha)にて、出穂期におけるほ場審査を行った。

ほ場審査当日は、審査員資格を持つ普及指導員がJAの担当営農指導員(審査補助員)の協力を得て全筆を巡回、異形の稲株や病虫害発生の有無、雑草等の栽培管理状況について審査を行った。

審査の結果、各ほ場とも生育の揃いは良く、穂の汚れや雑草も例年以上に少なく全筆合格となった。

農業普及課では、「岐阜県主要農作物種子条例」が施行された本年度も高品質な種子生産に向け支援を行う。
(地域支援第二係・今井啓司)



【採種ほ場の状況】

■イチゴ いちご苗炭酸ガス処理システムが導入

9月6、7日、本巣市いちごほ場において「いちご苗炭酸ガス処理システム」が導入され、メーカー指導のもと処理作業が実施された。このシステムは、定植前にいちご苗を炭酸ガスで24時間処理することで、ハダニを駆除し、本ぼでの発生を抑える効果が期待できる。

導入コストは150万円ほどかかるものの、本ぼでのハダニ防除の労力と経費が大幅に軽減できるため、30a以上の規模の生産者で普及を想定している。

農業普及課では、処理効果を調査して各研修会で情報提供を行っていく予定である。
(園芸産地支援第二係・三和 浩一)



【炭酸ガス処理作業】

住みよい農村づくり

■外来生物駆除 水田農業の担い手がジャンボタニシを捕獲

ここ数年、気象の影響から南米からの外来生物であるジャンボタニシの田植直後の食害が目立ち、生息域も徐々に広がっており稲作での課題となっている。

9月14日、本巣市水田農業担い手協議会では、更なる生息域の拡大を防ぐ目的で、会員と関係機関職員28名が参加し、本巣市北部で今年度新たにジャンボタニシの生息が確認された水田にて捕獲作業を実施した。

農業普及課では、対策資料を作成して防除指導に取り組むほか、今後も捕獲作業等にも協力し駆除を進める。
(地域支援第三係・松本 政行)



【捕獲作業の様子】

■地産地消 農産物直売所研修会の開催

9月26日にJAぎふ北方支店大会議室において、岐阜地域の農産物直売所出荷者を対象とした研修会を開催した。

当日は関係者を含め39名の参加があり、塩尻市農業公社の農産物流通コーディネーターの村上氏から、塩尻市で行われている学校給食と地域をつなげる取組みについて、道の駅おばあちゃん市・山岡の元駅長後藤氏からは、道の駅を盛り上げるために行っている活動について、それぞれ講演及び事例発表を聞いた。

農業普及課では、今後も関係機関と連携して、直売所における地産地消の取組みについて支援を行っていく。
(地域支援第一係・鈴木郁子)



【研修会の様子】